

輝く 恵那人

196人目

HUMAN WATCH



山岡町馬場山田山田区
みずの よしのり
水野 良則さん 68歳

□プロフィール
趣味は自然環境に浸る事と小旅行。
プラス思考でポジティブな性格。
市恵南商工会会長、市畜産振興協議
会会長、元県養豚協会会長。

県「飛騨美濃特産名人」に認定

豚熱の悪夢を乗り越える

徹底した農場の飼育衛生管理に取り組み、豚熱発生を乗り越えて養豚業の再生を果たしたことが高く評価され、県の「飛騨美濃特産名人」に認定された水野さん。「豚熱が流行した大変厳しい時に、県内の養豚仲間が助け合い、戦ってきたことが認められた」と喜びを語る。

両親が農業と豚を飼育する農家養豚を営んでいたこともあり、地元の中学校を卒業すると三重県の農業高校へ進んだ。在学中は、農業経営をしたいという将来への思いがあったが、自分には何が向いているかが分からず、漠然とした目標に迷いがあった。同校の4年生に当たる農業専攻課で実習をする中で、近代化していく養豚の過程が面白いと感じ、興味を持った。

20歳で地元に戻ると、現在の会社の前身となる養豚団地を始めた。23歳で結婚し、夫婦で農家養豚を営んでいたが、30歳で転職が訪れる。離乳した子豚を市場に出荷できるまで飼育する肥育農場に転換。以後、多くの苦労はあったが、順調に事業を拡大してきた。

しかし一昨年、悪夢が起きた。岐阜県を含む10県で猛威を振るった豚熱に二度も見



▲飛騨美濃特産名人の認定証を手にする水野さん

舞われ、飼育していた豚約8千300頭余りの全てが殺処分で犠牲となった。その状況は地獄絵図。残酷で思い出したくもない状況だった。当時は息子に事業継承をして間もない頃。「とんでもないことが起こってしまった」と先行きが不安で恐怖の毎日だった。また、30年間手塩に掛けてつくり上げたブランドも失ってしまった。しかし、諦めず再建を信じた。周りの温かい激励の言葉と支援を受け、昨年1月に事業を再開することができた。

「全てを失ったことで見えたこともある。取引先の皆さん、多くの消費者が待っていてくれたことがとてもうれしい。再開の道が開かれたことを心から感謝したい」と笑顔で話し、完全復活を誓った。



はじめまして
えなっ子
出生おめでとう
(12/11~1/15 届出分)

()は保護者

<p>1歳おめでとう これからも、お姉 ちゃんと一緒に元 気に育ってね!!</p> <p>額 希ちゃん 長島町 父 隆也さん 母 早織さん</p>	<p>生まれてきてくれ てありがとう♡こ れからもすくすく 元気に！大好き♡</p> <p>桑島 沙椰ちゃん 中野方町 父 悠輔さん 母 麻乃さん</p>	<p>みあちゃん、毎日 ニコニコ笑顔をあ りがとう♡パパと ママの宝物です！</p> <p>大森 美碧ちゃん 長島町 父 諒太さん 母 恵美さん</p>	<p>いつも明るい笑顔 をありがとう♡兄 弟5人仲良く育っ てね♪</p> <p>堀 茜ちゃん 明智町 父 敦さん 母 理夏さん</p>
<p>子育て支援センター 遊びに来てね</p> <p>▲こども元気 プラザ</p>	<p>子育て支援 センター</p> <p>▲こども元気 プラザ</p>	<p>祝1歳！太陽のよ うな笑顔のひなた が大好きだよ！元 気に育ってね！</p> <p>熊崎 萱斗くん 三郷町 父 吉紘さん 母 沙耶香さん</p>	<p>1歳おめでとう。 生まれてきてくれ てありがとう！</p> <p>柘植 陽ちゃん 中野方町 父 久雄さん 母 光江さん</p> <p>林 萌和ちゃん 長島町 父 栄太さん 母 明恵さん</p>

7歳になりました

2月生まれ



3月に1歳の誕生日を迎えるお子さんの写真を募集します。①お子さん1人で写った、顔全体と胸から上が入っている写真 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④生年月日 ⑤性別 ⑥電話番号 ⑦両親の氏名(ふりがな) ⑧32字以内のコメント ⑨ケーブルテレビ放映の可否を、2月12日(金)までに市公式LINEか電子メール(☐info@city.ena.lg.jp)で申し込みください。掲載は先着8人までとします。



わーい！ 雪がいつぱいだよ

みさとこども園

友達が引っ張ってくれて、ソリに乗ったよ。下がでこぼこだったから、お尻がドンドンって跳ねて面白かった。かまくらも作ったけど、雪が少し足りなくて溶けちゃった。家ではお父さんと雪だるまを作ったんだよ。楽しかったな。

そう組(年長) 足立 幸愛くん

1月に入って寒い日が続く、何度か雪が降りました。市内では、外で雪遊びをする子どもたちの姿が見られました。

みさとこども園の園庭にも雪が積もり、子どもたちは大喜び。朝の支度を素早く済ませ、外に飛び出して行きました。

雪玉を作って雪合戦をしたり、赤土山の斜面を滑り降りたり、友達を乗せてソリを引いたり。年長児の中には、数人で力を合わせ、大きな雪だるまを作る子もありました。感染症対策をしながら、寒さに負けず過ごしています。

